

# 平成30年度 名古屋市立工芸高等学校 学校評価について

## 本校の教育目標

自分の道を、自分で考え、自分で選択し、自分で歩いていく生徒を育てる

## 本校の教育方針

- ① 広い視野と豊かな感性の育成
- ② 基礎的・基本的な知識・技術や技能の習得
- ③ 自律的に生きる人間の育成
- ④ 公共のために尽くす心、人権を尊重する心の育成
- ⑤ 社会的マナー・モラルの育成
- ⑥ 心身共に健やかで活力のある人間の育成

## 平成30年度重点目標について

「知・技・心の探究を通して、自ら考え、挑戦し続けるスペシャリスト」を育成することを基本方針とし、グローバルな視点を持ちながら、様々な外部機関との連携により社会(地域)に貢献し、新しい価値の創造に挑戦する工業教育を推進する。

### ① 次期学習指導要領への対応

#### 10年後の工芸高校のビジョンの構築

SI、新たな教育目標を基に各学科の今後のビジョンを編成した。

次期学習指導要領の学習会を開催し、課題等の検討を行った。

カリキュラム委員13名を選出し、次期教育課程の編成に向けて検討を開始した。

### ② 「いのちの大切さ」を実感させる教育

自殺予防、障害のある生徒への対応、いじめ防止、人権教育の充実

相談係2名を配置し、教員・生徒・保護者からの相談の窓口とした。管理職、SC、サポート委員会等との連携により、生徒の困難な問題にも対応できた。今後、更なる強固な生徒のサポート体制を構築する。

### ③ 「確かな学力」の定着向上を図り、高い進路目標を達成

「高校生のための学びの基礎診断」等の導入  
「大学入学共通テスト」に向けた準備

次年度より「高校生のための学びの基礎診断」の導入を決定し、学習会等を開催し「確かな学力」向上に向け検討を行った。

今後、授業改善等に向けた取組を推進し、着実な学力定着を図る。

### ④ 産学官・地域連携事業を強化し、

市民への情報発信を推進

工芸版デュアルシステム、KDO、企業連携等、幅広く生徒達が活躍できた年度となった。市民からも高い評価を得、生徒達の大きな自信となった。次年度もさらに魅力ある連携を実施する。

## 次代の特色ある教育課程の構築に向けて

新学習指導要領の最新情報について学習会等を実施した。また、長期的な検討を前提としたカリキュラム委員会を立ち上げ、新しい教育課程のたたき台を示し、検討をはじめた。

次年度、「総合的な探求の時間」を移行措置として導入するとともに、本校の系統立てたキャリア教育を基礎としたコアプランの構築を検討していく。

「高校生のための学びの基礎診断」の導入に伴う、「多面的な評価」や「学力向上」について検討していく。

平成 30 年度各分掌重点目標・達成状況・課題など

【教務部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
学習環境を整備し、指導と評価の一体化を通じた適切な学習支援を進める。	従前の学習環境を保つ。評価の観点を明確化すること	A	指導と評価の一体化に関して、シラバスの記載内容を整理することで各科目の目標を明確化した。早い段階で学習支援が必要な生徒を把握し、必要な支援を講ずることができた。	学びの基礎診断等を活用することで生徒個々の学習面の課題を洗い出し、学び直しを含めた学習支援を講ずる必要がある。
P D C A サイクルを前提とした教育課程とカリキュラムマネジメントのための方策の研究協議を行う	学校教育目標をベースにカリキュラムの在り方を検討することで、カリキュラムマネジメントに繋がる議論を行う。カリキュラムマネジメントについては講師を招聘して校内研修を実施し、教職員の理解を深める。	A	新学習指導要領について常に最新の情報提供を行った。また、長期的な検討を前提としたカリキュラム委員会を立ち上げ、新カリキュラム検討に向けたたたき台を示し、検討をはじめた。	カリキュラムマネジメントの具体的な手順について、理解を促進するための研修の必要がある。また、各教科・科目で培う資質・能力をベースに、教科横断的なカリキュラム編成を進める必要がある。

【総務部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
委員会・各種教育の充実	専門委員会（修学旅行検討委員会、施設設備企画調整委員会など）の連携・強化を図り、平和教育・防災教育の充実をめざす。	A	オリエンテーション合宿では日程等の改善ができた。 行き先を変更した修学旅行では平和教育、防災教育を充実させることができた。 現職教育の活性化ができた。 PTA 活動の活性化ができた。 防災教育の強化ができた。	専門委員会の活性化にむけて連携強化を図る。
学校全体の環境整備および情報管理の充実	設備の新規導入や更新を推進するとともに、ガイドブックの編集を行い教育環境の整備を図る。WEBサイトの充実による情報発信を推進する。	A	ガイドブックの校正を各部と連携を取りながら進めることができた。 Windows7 の対策を進めることができた。 各行事等の情報発信を行い、WEBサイトを充実させた。	設備の新規導入や更新の推進を図る。 校務用 PC のリース化を目指す。 校内ネットワークの複線化を目指す。 情報管理の徹底を図る。

## 【進路指導部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
インターンシップの充実と改善	就業体験先の新規企業の開拓、就業体験報告集の一部改訂について行う。	A	就業体験先の新規企業の開拓、就業体験報告集の一部改訂を行うことができた。	引き続き、就業体験を発展させて生徒の進路設計の一助になるように役立てていきたい。就業体験報告集の更なる改善を模索していきたいと考える。
学校と企業等の情報交換を可能にするネットワークづくりの検討と学習	学校と企業等の情報交換を可能にするネットワークづくりの検討として、企業アンケートを実施しデータを収集し学習する。	A	企業との情報交換は就業体験受け入れ企業、求人企業、などを行った。さらに、求人企業に対して簡単な職場定着に向けた意識調査アンケートを実施してまとめた。また、企業のみならず、産学官の情報交換を国土交通省（中部地方整備局含む）、愛知県庁産業労働部、愛知県建設業協会、愛知県左官業協同組合、愛知県職業能力開発協会などと情報交換を行った。	今年度は、昨年度に引き続き、企業との情報交換の一つとして、求人企業に対して職場定着に向けた意識調査アンケートを実施した。アンケートを集約してより企業の実情を知り、生徒のマッチング向上につなげたいと考える。引き続き、企業とのネットワークづくりの検討を続けていきたいと考える。

## 【生徒会部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒会執行部と各委員会がより連携して委員会活動を行い、生徒が主体的に実践する生徒会活動や学校行事を推進する	○生徒が中心となって行事の企画や運営を行う ○執行部が各委員会に参加し連携を図る	B	○各委員会活動において、生徒自身が企画を立案し、運営することができた。 ○各委員会の枠を超えた活動に挑戦することができた。	○各委員会間の連携や執行部との連携を密にし、生徒会全体で目標に向かって取り組み、充実した生徒会活動を行っていく。 ○現状よりさらに生徒自身が委員会活動を運営していけるようサポートする。
部活動の適正な運用を図り、学校全体で支援できる環境を整備する	○部活動の環境整備に伴う予算措置を行う。 ○部顧問の体制を変え、全体で支援する環境を整える。	A	○部活動の環境整備に伴う予算措置を行い、環境充実を図ることができた。 ○各部の顧問を増やすことで、学校全体で支える環境を整備できた。	参加費の支出に関する規定を再考し、不平等感の無い部活動運営を推進する。

## 【保健部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
健康的な生活習慣を身につけ、健康で明るい学校生活を送れるよう指導・助言する。	定期的なほけん便りの作成、性講話の実施、検診の事後指導など、心と体が健康に過ごせるように指導・助言を行った。	A	保健委員を通じて全校生徒への健康管理の重要性を訴えることができた。性についての悩みが相談しやすい雰囲気をつくることができた。	保健委員、美化委員がより主体的にクラスの健康を守るための活動内容を具体的に決め、それを実践できるよう指導・助言する。
スクールカウンセラー、教育相談係と連携し、合理的な配慮を要する生徒の情報共有やサポート体制の充実を図る。	定期的にスクールカウンセラー、教育相談係、養護教諭で情報を共有した。また、事例検討会を行い、事例に対する考え方を共有するとともに、対処方法を検討した。 心のSOSの定期的な実施に加え、相談の希望をとり相談活動を行った。	A	担任の先生や学科の先生と協力をしながら配慮を要する生徒のサポートをすることができた。 教職員が生徒のことを相談しやすい雰囲気づくりや、サポートに向けた視点づくり、事例提供者へのフィードバックを行うことができた。こころのSOSを通じて、生徒が教職員やスクールカウンセラーに相談しやすい機会をつくることができた。	こころのSOSを活用方法を改善して、これまで以上にカウンセラーや教員と相談しやすい雰囲気づくり、サポート体制の充実をはかる。

## 【図書部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒の図書館の利用促進	読書を楽しむことができるような図書の選定をする。また、広報活動などで親しみやすい図書館の運営に努める	A	生徒、教員から本のリクエストが多数あり、図書を充実させることができた。図書委員による通信の作成により広報活動も行った。	本の貸出し冊数は年々減少傾向にあるので、少しでも読書をする習慣がつくような働きかけをしたい
図書館の設備充実	学習を支える環境、資料、情報を提供できるように図書館の設備を充実させる	A	同窓会からの寄付により同窓会からの寄付により、椅子が変わり、明るい図書館になり、授業での利用も増加した。	生徒閲覧用のパソコンなども古くなってきているので検討しなければならない

## 【工務部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
特色ある工業教育（デザイン・ものづくり）を実現するための施策を検討・実施していく	スクールアイデンティティ「ONE BY DESIGN」に基づいた本校ならではの工業教育を実践できるようにハード・ソフトの環境整備を行う。 本校の工業教育の魅力を様々な場面で発信し、工芸高校のPRをする。	A	チャレンジ教室や学校見学会だけではなく、各学科が展覧会や競技会などで工業科の魅力をPRできていた。学校見学会では近年の中でも参加者が最多となった。 デザインワーク実習室を新たに設置でき、より充実した工業教育が実践できた。	全校でS Iについての意識をもっと高めていきたい。 より工業教育を充実させるため、工業科として新しい取組や枠組みを積極的に提案していく。 引き続き、工業科の環境整備を行う。
産学官連携事業（KOGEI DESIGN OFFICE）のシステム構築を推進し、発展させていく	KOGEI DESIGN OFFICE 委員会を設置し、生徒・教員が協力し企画・検討を行っていく。 ロードマップに沿った計画を進めていく。	A	今年度より生徒の委員を募集し、教員と生徒で協力し、様々な企画を検討、実施することができた。 S Iに基づいた教育活動が実践できていた。	校内外にもっとK D Oの活動をPRしていきたい。 校内の運営体制の検討など、今後も、さらにシステム構築を進めていく。

## 【生徒指導部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
情報の共有化に努め、組織的かつ積極的な生徒指導を実践し、規範意識の高い生徒の育成に努める。	○学科、学年会、他分掌との連携を行う。 ○生徒への積極的な声掛けと見守り（自発性・自律性・自主性の涵養）を行う。	A	みだしなみ強化週間を実施し、全職員で生徒に対して積極的な声掛けと見守りを実施することができ、一定の成果を得ることができた。	学科、学年会との連携をより一層深める。 身だしなみ、遅刻など、生徒の変化に対して、常日頃から、全職員で声掛け、見守りができる環境整備に努める。
不登校、いじめ等の未然防止、遅刻・欠席が多い生徒の早期発見及び支援・対応等に努める。	○いじめアンケートの実施 ○登校確認カード制度の実施 ○遅刻者面談の実施 ○教育相談フェアの開催	A	登校確認カード制度により、正確な遅刻者数の把握が可能になり、早期に担任と情報を共有し、対応することができた。	遅刻、欠席が多い生徒に対して、担任、学科が連携し、早期に支援、対応ができる環境整備に努める。

**【広報企画部】**

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
安定した受検者の確保のための情報を収集し分析をする。	情報の収集 ○入試状況の分析 ○希望調査等の分析	B	限られた情報でおこなうため、正確な分析が難しい。	H31年度入学生の入試の結果を分析し、次年度の広報活動などに反映するように計画をする。
関係部署との連携を図り、より効果的な校外広報活動の企画・立案を行う。	○中学校訪問の企画・立案 ○進路説明会、上級学校説明会の対応 ○入学案内、学校パンフレットなどの製作	A	現時点での広報活動は、人員や予算を考えると達成されている。	現在の広報活動の工夫や、他の方法を考えることも必要である。ある程度の効果が期待できる中学校訪問のより効果的な方法を探る。

